

『まるごと』を使用したジュニア日本語コースの実践と教材開発

サルクエワ アイジャン／ドロトバエワ アイナ
キルギス日本人材開発センター

1. 実践コースの基本情報

レベル	A1
実施コース名	ジュニア日本語コース
実施日時・期間 および参加者数	一年間コース、2013年10月～2014年4月（STEP1-STEP4） 参加者5名 夏期集中コース、2014年7月（STEP1-STEP2）参加者10名
授業時間	各STEPは1回1時間×6回 4STEP（合計24時間）2STEP（合計12時間）
授業担当講師	報告者（2名）
1クラス学習者数	5-10名
学習者の属性	年齢:10-14才；小中学生
使用教材	『まるごと 日本のことばと文化』（以下『まるごと』）入門及び初級1 のかつどう編を参考にした教材

2. 実践の背景-JF 講座ジュニア日本語コースの開講及びその教材開発の経緯

キルギスでは2000年代東洋言語の教育が初中等機関で導入され、それ以来、生徒たちは日本語にも興味を持ち始めた。同時にキルギス日本センターの日本文化講座に通う生徒も増えはじめ、日本文化や日本語に対する関心が高まった。こうした背景のもと、2011年7月からキルギス日本センターでは、ジュニア向け夏期集中日本語講座が開講された。このコースでは『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE』（AJALT）からの抜粋を用い、あいさつなどの簡単なフレーズを覚えたり、折り紙体験などを通して日本文化に触れる活動を行っていた。その後、JF 講座となり、2013年8月に、全てのコースカリキュラムをJF スタンドに準拠して改訂することになった。それにともない、ジュニア日本語コースも同様にシラバスと授業内容を一新することとなった。本実践報告ではこのJF 講座ジュニア日本語コースのシラバスの開発と教材の工夫について報告し、2015年より取り組み始めた教材の開発について述べる。

3. 実践の内容

3.1 JF 講座ジュニア日本語コースのコースデザインと教材の工夫

(1) コースデザイン

『まるごと』入門・かつどう編及び『まるごと』初級1・かつどう編のトピックから子どもにも適したトピックを取捨選択して使用した。

コースは4つのSTEPから成るが、各STEPは週1回(1時間)×6回とし、1回から5回まで毎回新しいトピックを扱い、最終回の第6回では1-5回の全てのトピックの話題を取り入れたプレゼンテーションを行う構成にした。各回にCan-do目標を2つ設定し、毎回その授業で何ができるようになるかを授業の初めにはっきりと示すようにした。2つのCan-do目標のうち1つ目の目標は「日本・日本語について知る」ことを目標とし、2つ目は「日本語でできる」ことを目標として、日本文化や日本事情を学びながら日本語を身につけられるよう配慮した。授業の終わりに一人一人に発表タスクを与え、教師がそのCan-doの達成度をチェックした。開講当初は1STEPのみの日本語体験コースとする予定だったが、修了者の中には学習継続の希望の強い人がいたため、最終的に4STEPまで開講した。各STEP(各課)のテーマとCan-doは参考資料1を参照されたい。

(2)教材の工夫

教材は『まるごと』を一部利用した。具体的には、①子どもにふさわしいトピックや場面の選択、②練習量の調整、③文字の変更、の3点である。『まるごと』は成人向けの教科書なので、子どもに合わない場面も多かった。またジュニアコースでは1回1時間で『まるごと』の1課を扱うため、練習や語彙などの情報量を調整して少なくした。キルギスの子どもたちにとってローマ字はまだ難しいため、読み方を示すために記されているローマ字をキリル文字に変え、指示文はロシア語で提示することによって、子どもたちに、よりわかりやすくした。

3.2 コースデザインと教材の見直し

(1)担当教師によるコースの振り返り

前述の通り、工夫をしながら『まるごと』を利用したが、それでも難しいことは多かった。大人はCDで、ある場面の話を聞いてわからない日本語があってもそれまでの抱負な経験を活かし、背景知識を活性化させて推測したり、必要な部分を聞き取ったりできるが、子どもにとっては、CDを聞くだけでわからない部分を推測したり、必要な部分を聞き取ることが難しい場合も多かった。また、教師側からみて子どもにふさわしいと思ったトピックのなかにも適切でないものがあった。例えば「待ち合わせ」や「町案内」というトピックは子どもたちがまだ母語でも経験していないことであり、少し難しかった。これらの反省から、コースのシラバスを修正し、より子どもたちにふさわしい教材を作る必要があることが明らかになった。

(2)アンケート調査の実施とその結果

そこで、教材を作る前に、まず、子どもたちの実際のニーズを調べるため、日本語教育を取り入れている市内の初中等教育機関3校に協力を依頼し、アンケート調査を実施した。回収で

きた 31 名の回答を分析した結果を以下の図 1, 2, 3 に示す。なお、回答は、選択肢の中から選ぶ方式にし、その他に自由記述できるようにした。いずれの質問項目でも、選択肢の複数選択を可能とした。

まず日本への興味、自身の趣味、そして日本を学ぶ動機についてたずねた結果を見る(図 1)。

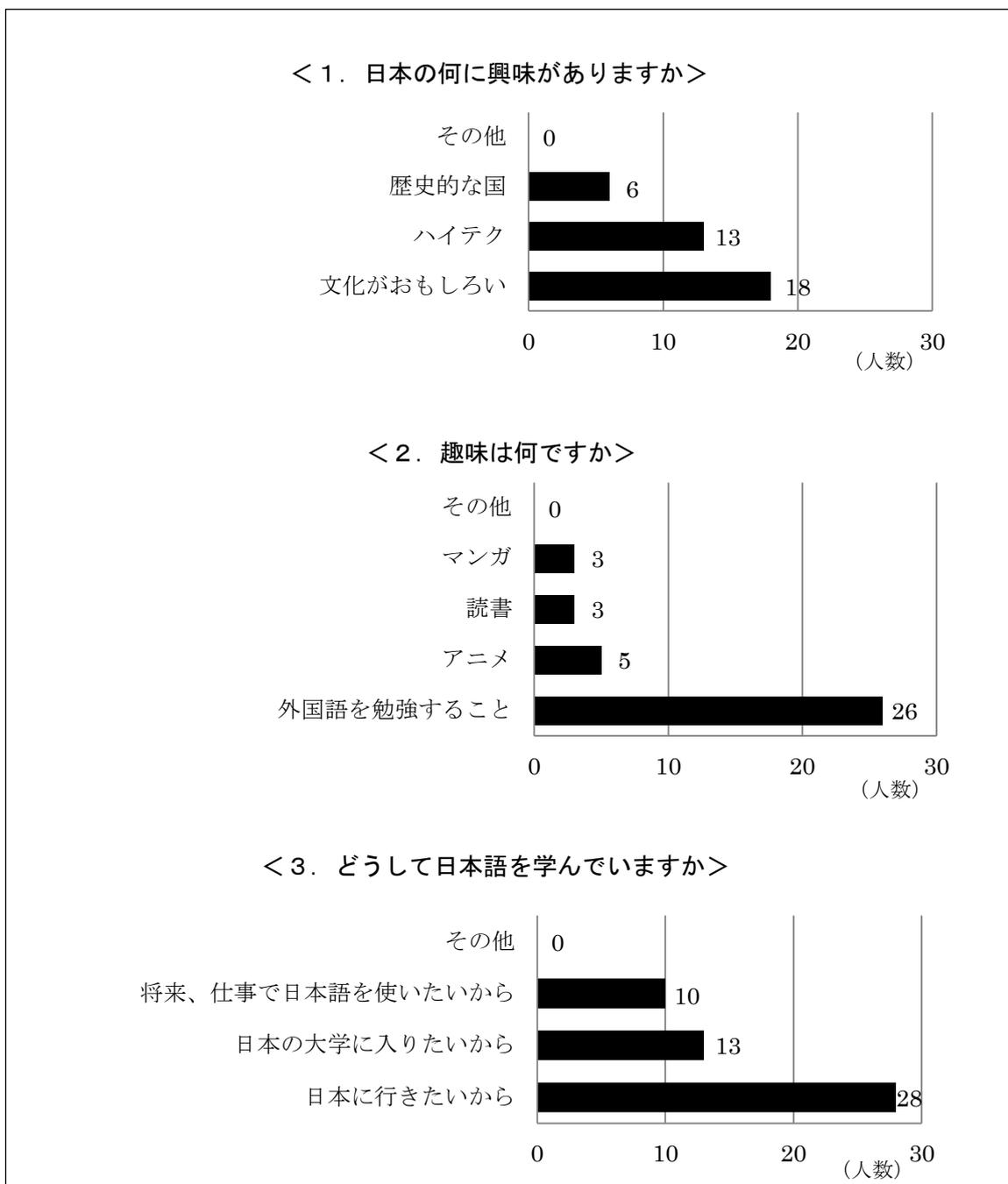


図 1 質問項目 1、2、3 への回答

＜1. 日本の何に興味がありますか＞という質問項目に対して、31 名中 18 名が「日本の文化が面白い」と答えており、回答した子どもたちの半数以上が日本の文化に興味を持っているこ

とがわかった。一方で、日本のテクノロジーや歴史に興味を持つ子どもも少なくなかった。近年、ロボット、電気製品、パソコンなどの日本のテクノロジーに興味を持つ子どもが増えてきていることを反映しているのではないかと考える。

＜2. 趣味は何ですか＞という質問項目に対して、「外国語を勉強すること」と答えた子どもが31人中26人とかなり多い。近年、キルギスでは外国語を趣味として学んでいる子どもの数が多い。これまでは英語の人気が高かったが、近年では東洋言語に興味を持つ子どもが増えてきている。

＜3. どうして日本語を学んでいますか＞という質問項目に対する回答からは、キルギスの子どもたちの日本語を学ぶ背景に、「日本に行きたい」ことが強い動機としてあることがわかる。日本語の学習を始めるきっかけや動機付けになっているものは日本文化への興味である場合が多いかもしれないが、その学習を持続させている動機は、いつか日本に行ってみたいという気持ちなのかもしれない。実際、日本に行きたいという気持ちから熱心に日本語を学んでいる子どもも多い。

なお、回答の選択肢に、「趣味として学びたいですから」、「日本の文化に関心がありますから」等、実利に直結しない項目もあるとよかったと考える。今後のアンケート作成に活かしたい。

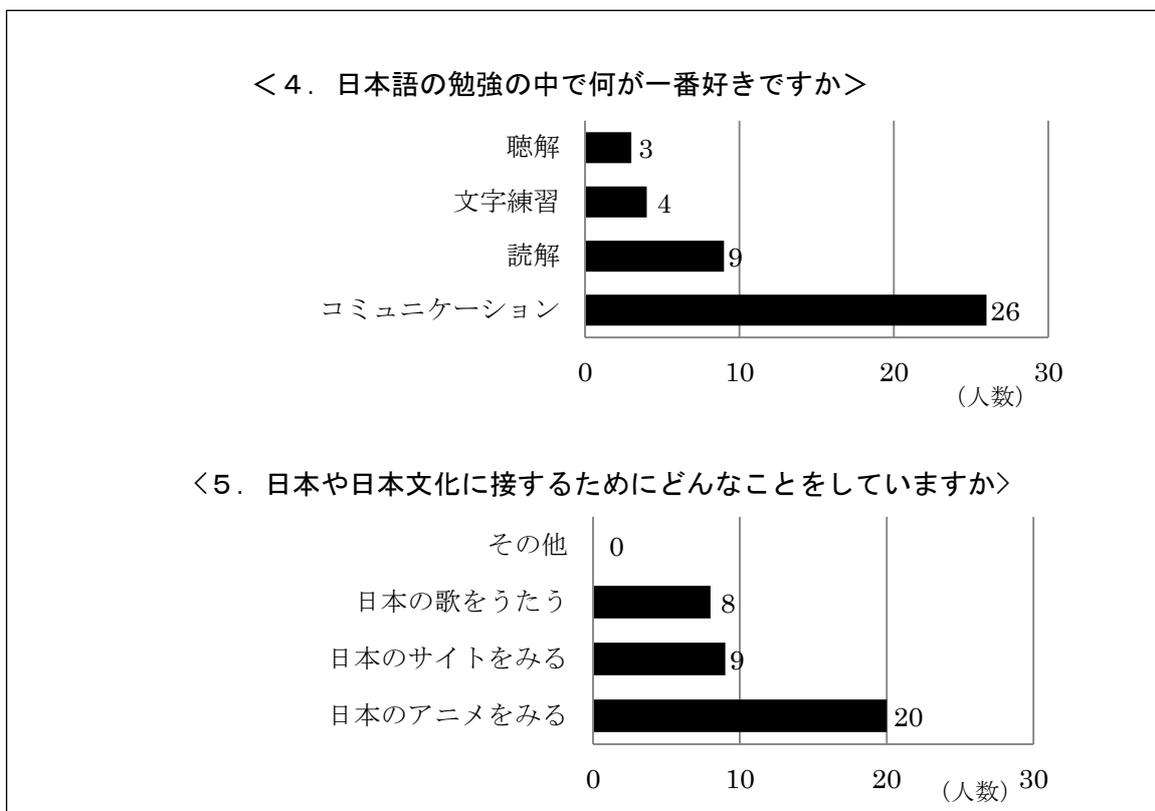


図2 質問項目4, 5への回答

次に図2について述べる。＜4. 日本語の勉強の中で何が一番好きですか＞という質問項目

に対しては、日本語でコミュニケーションするのが好きと答えた子どもが最も多かった。習った表現やフレーズを使い、コミュニケーションすることに興味をもっているからではないかと考える。一方で、全体としては少数ながら、文字練習や読解を選んだ子どももいた。文字や読解に興味を持つ子どものため、コミュニケーションばかりに注目するのではなく、聴解・漢字や文字のミニクイズを授業に取り入れることも必要かもしれない。

< 5. 日本や日本文化に接するためにどんなことをしていますか > という質問項目では、31人中20人が「日本のアニメを見る」を選択していて、多くの子どもがアニメ鑑賞を通して日本文化に触れていることがわかった。「日本のサイトを見る」、「日本の歌を歌う」子どももいた。また、アンケート回答にはなかったが、授業でのやりとりでは柔道など日本のスポーツを習う子どもが多くなっていることがわかったため、今後はこうした項目も設けたい。

子どもたちがキルギスにある日本組織主催のイベントに参加したり、日本のスポーツを習ったりする子どももいた。

次に、次ページの図3について説明する。せっかく日本語を学んでも、キルギスに住む日本人は多くないため、日本語を使う機会は少ない。そのため、< 6. 日本語をどこで使っていますか > という質問項目を設けて、実態について知ることにした。結果、予想通り、「クラスで教師と」が一番多く、次いで「クラスでクラスメートと」日本語を使う子どもが多いという結果になり、クラス外で日本人と実際に使う機会が少ないことがわかった。

< 7. 日本語を使って何ができるようになりたいですか > という質問項目に対して、31名中19名が「日本人の友達とコミュニケーションができるようになりたい」と答えており、最も多かった。また、「日本語でオリジナルの本が読めるようになりたい」と答えた子どもは14名で、「日本語でアニメを見たい」と答えた子ども（7名）を上回る結果となった点が興味深い。

反省点として、「日本人と友だちになりたい」、「日本語を使って文章を書けるようになりたい」、等の項目もいれて、他の技能についても調べるべきであったと考える。

最後に、< 8. 日本人に会ったらどんなことを聞きたいですか／話したいですか > という質問をした。この質問項目については、「キルギスの文化について話したい」（11名）「日本の食べ物について聞きたい」（10名）、「日本の祭りについて聞きたい」（7名）の順に多かった。「日本語の表現について聞きたい」という子どもも2名いたが、「日本の天気と季節」について聞きたいという選択肢を選んだ子どもは一人もいなかった。

ジュニア日本語コースの修了時の目標は「自分のことを日本語で言えるようになる」ことである。アンケート調査を行ってみて、子どもたちは日本人と自分の国のことについて話したい、習った日本語を通して日本人とコミュニケーションをしたいと思っていることがわかった。

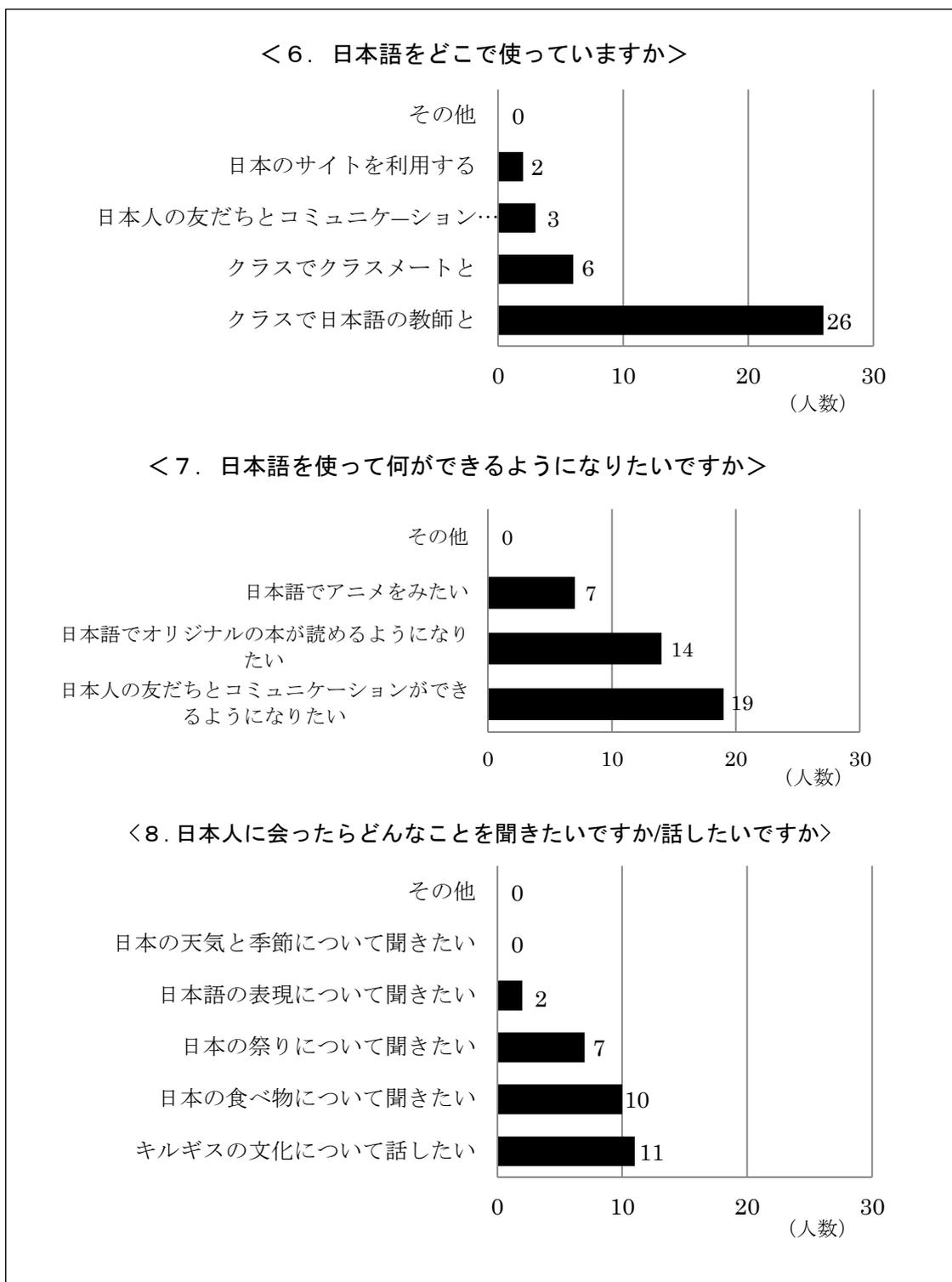


図3 質問項目6、7、8への回答

このような結果から、コースの目標設定は妥当であることが確認できた。また、子どもたちは日本の天気や季節にあまり興味がないことがわかった。キルギスでは日本と違い、挨拶の時にあまり天気や季節の話をしないうことと関係があるかもしれない。この点については、これま

でのカリキュラムで取り上げたトピックのテーマを再検討する必要があることがわかった。

このようにアンケート調査は、学習者のニーズを確認するだけでなく、授業の内容を振り返るきっかけともなり、ジュニア日本語コースを担当した教師の内省にもつながった。

3.3 コースデザインと教材に関する改定の方針

アンケート調査の結果を踏まえ、STEP 1～STEP 4のシラバスを再検討したところ、STEP 3のシラバスにある天気に関するトピックを、他のトピックに変更したほうが良いということになった。一方、STEP 1、2、4に関しては、今回の調査からは変更の必要はないと判断した。

また、教材については、3.2(1)でも述べたように、コースを実践した教師の内省から、より子どもにふさわしい内容に改善する必要があると考え、次の4点に配慮した新教材を開発することとした。

- ①写真やイラストなどの使用素材を子ども向けにする
- ②新出語彙を20語前後に抑える
- ③練習問題や聴解スクリプトを導入語彙に合わせて作り替え、さらにより簡略化したものにする
- ④読み仮名はキリル文字、指示文はロシア語にする

また、この教材を当センターだけでなく、広くキルギス全体の初中等教育機関で利用してもらいたいという願いから、フルカラー印刷資料ではなく、授業用パワーポイントスライド（カラー）とワークシート（モノクロ）のデータ版を作成することとした。アンケート調査に先だって、地方都市の教育機関も含めた6機関への聞き取り調査を行った結果、カラー印刷の設備が備わっている機関は皆無だが、PCについては教師の私物も含めると全機関が所持しており、またプロジェクターを備えている機関も3校あることが明らかになったからである。教師はフルカラーのパワーポイントを使用して授業を行い、学習者には学習の記録として残すためのモノクロのワークシートを配布することで印刷の問題は解決すると考えた。

各課のワークシートの構成と新たな工夫は次の通りである。

- ①各課の初めにCan-doを2つ提示。子どもは、授業後に自己評価を行う。
- ②ふりがなと翻訳（日本語・キリル文字のふりがな・ロシア語訳）

日本語の文字に多く触れ、慣れることを目指した。ストレスを減らすため、キリル文字のふりがなとロシア語の翻訳を付した。

- ③授業で習う文型や表現の会話例

子どもが会話の内容について推測できるようなイラストを選択した。

④会話練習

パワーポイントを使ってクラス全体で練習した後、会話モデルを読み、習った表現や新出語彙を使い会話練習をする。

子どもに相応しいイラスト、トピック、語彙を選んだ。例えば、家族のトピックの「わたしと妻」の写真を使わなかった。また、休みの日のトピックでは、大人と子どもの休みの過ごし方が違うので多くの内容を変えた。例えば「一緒に飲みに行きました」は「一緒に映画館に行きました」に、「公園で子どもと遊びました」は「友だちと散歩しました」にした。

⑤聴解練習

聴解練習の場合、人物の名前は子どもにとって身近な現地人の名前を多く使用した。日本人の名前には「さん」だけではなく「ちゃん」、「くん」を付けた。

また、聴解スクリプトを子どものレベルに合わせ、アレンジした。例えば、大人のスケジュールと子どものスケジュールは違うため、「会社に行きます」は「学校で勉強します」に、「妹が家に来ます」は「友達と遊びます」にした。

⑥宿題

クラスで習ったことを家で復習できるような練習問題を盛り込んだ。例えば、クラスで自分の名前をひらがなで書いた後、家で家族・友だちの名前を書く活動をさせた。また、クラスで提示された言葉で「～が好きです」の練習をし、家では身の回りのものについて言う練習をさせるような宿題を出すなどした。

また、各課のパワーポイントの構成は次の通りである。

最初のスライドは、イントロダクションとして子どもの頭を活性化させ（資料2のスライド1参照）、次のスライドで Can-do 目標を示す（同資料スライド2）。子どもは手元にあるワークシートを参照しながら、教師と一緒にその課の Can-do 目標の確認をする。その後、新しい語彙の導入と練習で、絵や写真から子どもに内容を推測させる。新しい語彙は CD を聞いて、リピートさせる（スライド3-8）。聴解タスクは、スライドを見ながら音声を聞き、問題を解いていく。答え合わせはワークシートを見ながら行う（スライド9-10）。また、会話例（スライド11）は、ワークシートにもあるので手元で確認できる。最後に Can-do 確認のチェック（スライド17）をクラス全体で行なう。以上のような構成は、全課において共通している。

第5課では、日本の季節のイベントを知ることが Can-do 目標の1つであるため、季節の紹介とその季節のイベントについて簡単に説明をする（スライド12-16）。日本文化と母文化とを比較する活動も取り入れた。なお、文化の紹介や説明にはロシア語を用いる。

イラストを見て推測する、たくさん聞いてからリピートするなどの『まるごと』の工夫はそ

のまま活かした。前述の通り、ローマ字に慣れていない子どものために、ひらがなを読むためのローマ字をキリル文字にしたが、さらに、文字のフォントも子どもが興味を持ちやすいようポップ体を使って読みやすくする、場面を子どもにとって身近なものに変える、覚えたことを忘れないように帰っても練習できるような宿題を取り入れる、など、子どもが楽しんで日本語を学習できるように様々な工夫をした。

なお、本教材の作成は 2015 年度キルギス J F 講座拠点事業として実施の承認を得、2016 年 3 月までに STEP 1 および STEP 2 のデータ版を完成予定である。(STEP 3、4については未定)。教材プロトタイプ (STEP 1 第 5 課「しゅみ」のパワーポイントスライド、及びワークシート) は、資料 2、資料 3 を参照されたい。

4. 今後の予定

全課のプロトタイプが完成したのち、ビシケク市内の協力校 3 校で模擬授業を行い、更なる修正を加えた上で、完成版とする計画である。キルギスでは現在、初中等教育機関や語学教室などの学習者数が増加している。理由としては現代日本のアニメを始め、映画、歌などにあこがれている子どもたちが多く、また外国語教育に力を入れ、新たに日本語コースを増設する学校が増えていること、そしてキルギス全土で活躍する JOCV⁽¹⁾が、本来の業務の傍ら現地の要請にこたえて子どもたちに日本語を教えるケースが多いことが挙げられる。その指導者の多くが子ども向け教材のないことに頭を痛めている。私たちの取り組みが、この問題を解決する一助になることを願っている。

[注]

- (1) JOCV は、独立行政法人国際協力機構 (JICA : Japan International Cooperation Agency) が実施する海外ボランティア派遣制度 : 青年海外協力隊の英称 (Japan Overseas Cooperation Volunteers) の略である。

資料1：各STEP（各課）のテーマとCan-do目標

Step1		
課	テーマ	Can-do 目標
1	あいさつ 文字 自己紹介	・日本語で挨拶できる。 ・日本語の文字紹介 (カタカナで自分の名前が書ける)
2	家族 数	・日本語で数える。 ・家族のことを簡単に話せる。
3	日本の 食べ物	・日本の食べ物について知る。 ・好きな食べ物について話せる。
4	生活	・時間の言い方を知る。 ・一日の生活について話せる。
5	趣味	・日本の季節のイベントを知る。 ・趣味について話せる。
6	まとめ	・自己紹介発表 ・修了証授与

Step2		
課	テーマ	Can-do 目標
1	挨拶 文字	・教室の言葉が話せる。 ・ひらがな/カタカナで言葉がかける。
2	家 形容詞	・日本の家、部屋について知る。 ・自分の部屋について話せる。
3	生活	・月、曜日の言い方を知り、 自分のスケジュールを話す。 ・誕生日を言え、 おめでとうカードが書ける。
4	買い物 助数詞	・日本のお土産を知る。 ・買いたいものについて話せる。
5	休みの日	・日本の有名な場所を知る。 ・休みの日はどうだったか感想が 言える。
6	まとめ	・日本観光地紹介発表 ・修了証授与

Step3		
課	テーマ	Can-do 目標
1	季節	・季節について話せる。 ・好きな季節とその理由を簡単に話 す
2	天気	・天気について話します。 ・天気について話して挨拶します。
3	町	・自分の町について役に立つことを 友だちに伝えます。 ・町のいいところを描写できます。
4	待合わせ	・日本語で場所の名前を言える。 ・友達と待ち合わせの時間と場所に ついて話せる。
5	誘い	・おすすめの場所に友達を誘えます。 ・誘いを受ける／断る。
6	まとめ	・日本人にキルギスのいいところを 紹介できる。 ・修了証授与

Step4		
課	テーマ	Can-do 目標
1	外国語	・日本語の発音を知る。 ・外国語の勉強が簡単か難しいか言える
2	外国文化	・外国文化を知る。 ・してみたいことについて話せる。
3	体	・体の言葉を知る。 ・簡単な体操の仕方を聞く。
4	健康	・自分の健康について説明できる。 ・健康のために何をしているか言える。
5	お祝い	・祝日の名前を知る。 ・プレゼントへの感想を言える。
6	まとめ	・趣味・習慣・毎日の勉強などについて 話せる。 ・修了証授与

資料2：パワーポイントスライド



①しゅみについてはなせます。
 шюмини цуитэ ханасэмас
 Могу рассказать о своем хобби.

②にほんの きせつの イベントをしります。
 нихонно кисэцуно ибэんとо сиримас
 Узнаю о сезонных японских праздниках.

2

スポーツ
супооцу

えいが
ээга

3

おんがく
онгаку

どくしょ (ほん)
докусё (хон)

4

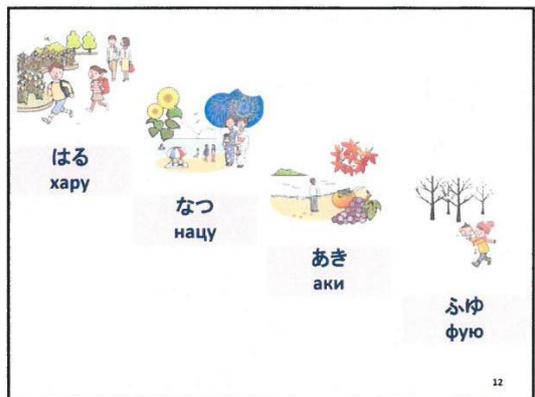
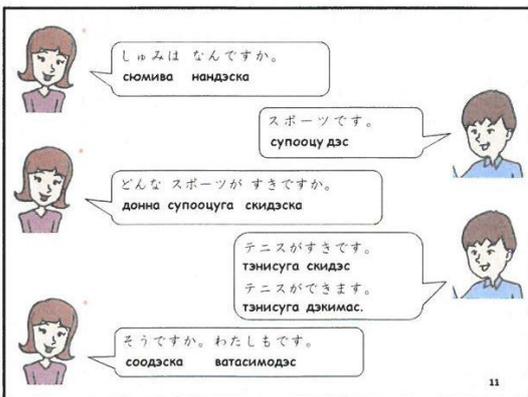
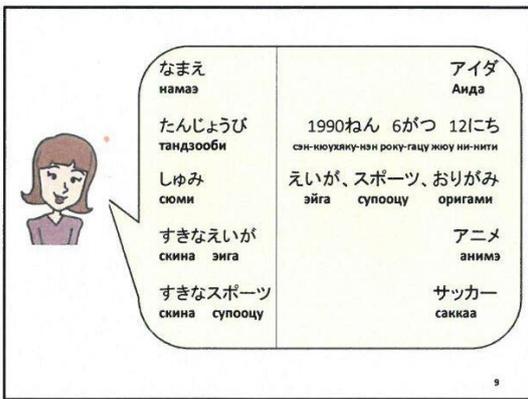
しゅみは **スポーツ**です。
 сюмива **супооцудэс**

テニスが すきです。
тэнисуга скидэс

5

ダンス
дансу

6



はる
хару



こいのぼり



ханами

кодомоно хи
05.05

13

なつ
нацу




ханабитаикаи

хэивано хи
06.08

14

あき
аки




акимацури

цукими

15

ふゆ
фую




мотицуки

осёогацу
01.01

16

できましたか。Справились?

① Могу рассказать о своем хобби.

② Узнаю о японских сезонных праздниках.



17

資料 3 : ワークシート

だいか
第5課
Урок 5

Can-do

① し・みについて はなせます。
СМОИМИЦУИТЭ ХОНСАЭМАС
Могу рассказывать о своем хобби.

② に 居んの きせつの イベントを しります。
НИХОНО МИСАЦУНО ИБЭНТОО СИРИМАС
Узнаю о сезонных японских праздниках

できましただか。
Справились?
☆☆☆
☆☆☆

Пример:

A: し・みはなんですか。
СЮМИВА НАНДЭСКА
サッカーがすきです。
B: サッカガ スキダス
サッカーができます。
サッカガ デキマス



Dialog:

し・みは なんですか。
СЮМИВА НАНДЭСКА

スポーツです。
СПОРЦУДАС

どんな スポーツが すきですか。
ドンナ СПОРЦУГА スキダスカ

テニスが すきです。
ТЭНИСУГА スキダス
テニスが できます。
ТЭНИСУГА デキマス

そうですか。わたしもです。
СОウダスカ ВАТАシモダス

チャンピオン
チャンピオン
チャンピオン

アサシくん
アサシ - くん

シロくん
シロ - くん

ユウくん
ユウ - くん

Упражнение ①:

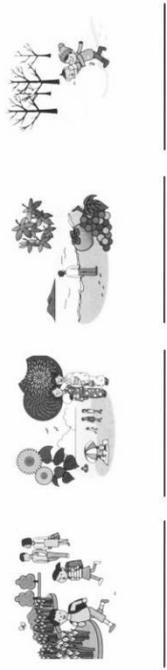



～が すきです。
～ガ スキダス

Упражнение ②:




～が できます。
～ガ デキマス



Новые слова:

N	как читается	на японском	на русском
1	оригами	おりがみ	оригами
2	тансу	ダンス	танец
3	супоцу	スポーツ	спорт
4	эга	えいが	кино, фильм
5	онгаку	おんがく	музыка
6	хон	ほん	книга
7	докусэ	どくしょ	чтение
8	сакка	サッカー	футбол
9	сюми	しゅみ	хобби
10	гайкокуго	がいこくご	иностранный язык